

地域福祉コーディネーターの機能・居場所づくり 質問提出シート回答

No.	項目	質問	回答
1	地域福祉coの機能について	当初構想の「地域福祉コーディネーター」と、現在配置されている「地域専任担当職員」との役割の違いや過不足について教えてください。	<p>①地域福祉コーディネーターの役割の大事な機能に「制度の狭間にある支援が必要な方に寄り添い、地域住民とつなぐ」部分がありますが、「制度の狭間にある支援が必要な人」の支援を市民社協がしていると積極的に表明している訳ではありません。そのため、現状ではそういったケースの相談が市民社協に来ることは少なく、関係機関も市民社協がそのような役割を果たすと認識してはいないと思われるので、十分に出来ているとは言えない状況です。</p> <p>②現状でも高齢や子ども関係などの相談窓口（関係機関）より、ボランティア等支援が必要なケースについて市民社協に相談があり、対応しています。しかし、あくまでも相談に来たケースの対応についてのみとなっています。市民社協（地域専任担当・ボランティアセンターを含む）の役割を関係機関に理解していただくために、30年度より、関係機関向けに説明会を実施している所です。（市役所およびエリア別在宅介護・地域包括支援センター向けに7回開催済み）</p> <p>③地域活動の支援については、地域社協を始め市民社協では力を入れてきた部分ですが、現在、3名体制（1名が中学校区2つ分のエリアを担当）なので、十分とは言えない状況です。地域で開催されている居場所やサロンなどの場に出向くことも地域福祉コーディネーターの役割では大事な部分だと思いますが、時間をそういった所にまで割けるような体制になっていないこと、また、①②に取り組める体制は不足していると感じています。</p>
2	地域福祉coの機能について	なぜ、地域福祉コーディネーターを配置しなかったのですか？	<p>第4期地域福祉計画（P28参照）および第3次地域福祉活動計画（P49参照）にあるとおり、「地域福祉コーディネーター設置プロジェクト（仮称）」を設置し、関係機関と設置に向けた検討を行う予定でした。しかし、平成26年度に地域福祉計画の一部改定があり、「地域福祉コーディネーター（仮称）」については、市民社協が策定した第3次地域福祉活動計画を経て導入に向けた検討が行われたところですが、この度の介護保険等制度の改正により新たに設置される生活支援コーディネーターとその役割の多くが重なることが明らかになりました。現在生活支援コーディネーターを地域包括支援センター内に配置する方向で検討を進めており、導入後の活動を見ながらその後の展開を図っていきます。」となりました。そのため、地域福祉コーディネーター設置プロジェクト（仮称）は設置せず、現在に至っています。</p> <p>なお、第5期地域福祉計画（P125）では、「市ではこれらのコーディネーターが担う役割を勘案したうえで、地域福祉コーディネーター（仮称）の設置について市民社協と検討していきます。」と記載されています。</p>
3	地域福祉coの機能について	こんなスーパーな人はいるのですか？個人でできることとは思えないのですが・・・（組織的対応が必要では）	<p>地域福祉コーディネーターは、その役割を担う人ではありますが、その職員個人というよりも「機能」が大事だと考えています。他市区で配置されている地域福祉コーディネーターもチーム体制で配置しているところや大学等と連携し、スーパーバイズ機能も整えて配置をしている所もあります。現在、地域福祉コーディネーター（コミュニティソーシャルワーカー）の養成のために社会福祉士の専門資格の見直しも検討され始めています。組織としてどのように地域福祉コーディネーターをバックアップするかという点や養成（研修）については、武蔵野でも検討が必要だと思われます。</p>
4	地域福祉coの機能について	社協、地域社協の役割との違いは何ですか？（このような機能は本来社協に求められているように思うのですが）	<p>地域福祉コーディネーターの役割は、市民社協の基本理念である「みんなが主役ささえあいのまちづくり」を達成するためにとても大事な役割であると考えています。また、これまでの市民社協の行ってきた事業、ノウハウ等を活かすことができる取り組みです。</p> <p>市内13地域にある地域社協は、「住民同士の助け合い」を行う任意の団体です。住民同士だからこそできる助け合いの活動や住民同士ならではの活動の価値があります。一方で、住民同士の助け合いだけでは解決できない課題等もあります。市民社協はそのような方々を支援することを仕事として（組織として）取り組むことができます。地域社協のような住民活動と市民社協が業務として取り組んでいくことの両方が充実することによって、よりよい支援ができると考えています。</p>
5	居場所について	ざっくりでもよいので、地域に「無関心だった人・繋がっていなかった人」がどんな居場所やイベント等に参加し、どの程度巻き込めてきたか、地域に「繋がったか」の実例を教えてください。	<p>①事前配布資料2の1ページの下にある居場所では、子ども連れの保護者の方数名がその居場所の看板づくりを自ら申し出て、作業をしてくださるようになった例があります。また、そのうち1名の保護者の方は、地域社協の運営委員になり、地域社協の広報紙の配布も担当されています。</p> <p>②定年退職後閉じこもりがちだった男性が、奥様の勧めで近所の居場所に行くことになりました。最初は仕方なく通い始めた所でしたが、居場所の下駄箱の修理の作業を手伝うことから、居場所での「修理担当」になり、この方の発案で「夏休み子ども工作教室」も実施することになりました。</p> <p>①②以外にも居場所に参加したことで、「他の参加者から地域のイベントの情報を知り、そこに参加した。」という例もあります。また、居場所の参加を通じて、日常で道で会う時に挨拶する人が増えたと実感されている方もいます。（※個人が特定されないように事例は多少加工しています）</p>